

An aerial photograph of three Zodiac boats, each filled with people wearing red life jackets, moving across a vast expanse of teal-colored water. In the lower right, a large, jagged, and textured white ice floe floats. The boats are leaving dark trails behind them.

SILVERSEA®

北極圏
トラベルガイド

もくじ

はじめに

シルバーシー・エクスペディションで行く北極圏	3
おもな見どころ	4

クルーズエリア

スヴァールバル諸島&ヤンマイエン	6
アイスランド	6
グリーンランド	7
ノルウェー北部	7
カナダ北極圏	7
北東航路	8
北西航路	8

船上ライフと寄港地

ディスカバーシルバーシー	9
野生動植物の概要	10
王立地理学会	11
エクスペディション・チーム	12
オールインクルーシブのライフスタイル	13
持ち物リスト	14



北極圏を旅する

遠く離れた魅惑の地、氷に覆われた本物のワンダーランド

地球の果てまで旅をして、私たちが住む惑星の最果ての地を踏む感覚を味わいましょう。険しい山、氷河、冰山、深いフィヨルドの荘厳な景色の間をクルーズします。沸騰する泥の熱泉や吹き上がる間欠泉に目を瞠り、高くそびえ立つ玄武岩の崖から飛び立つ海鳥の群を目の当たりにできます。セイウチののたうつ様、鯨のブリーチング、ホッキョクグマを見つけること、すべてのことが、この遥かな土地の極めて雄大な美の魅惑的な物語を語りかけてくれます。本物の発見への情熱を持つ方へ、シルバーシーは、経験豊かな旅行者の皆様へ支持される、独自のオールインクルーシブのライフスタイルに身を委ねたまま、世界の極地にある最も好奇心を掻き立てる、チャレンジングな目的地への扉を開きます。北極圏へようこそ。



おもな見どころ

北極圏の氷に覆われたパラダイス

グリーンランド、カナダ、アラスカの北極圏に居住する人々の文化圏で話されるイヌイットの言語には、氷の表現がいくつもあります。巨大な氷河やそびえたつ氷山から、地平線まで広がる真っ白な叢氷の絨に、心奪われるような白や緑、青色の影が落ちる様は、母なる自然というキャンバスに描かれた感動的な素晴らしい絵画のようです。また、8か国に跨るこの地域の人口が400万人に満たないという事実によって、北極圏は自然の王国だとみなされているのです。季節ごとにやってくる約200種もの鳥類や、年間を通じてこの地に生息する陸生哺乳類があり、この地域への旅人は皆、地球の最北端に位置する別世界の素晴らしい生き物たちの光景を満喫しています。

氷床は最も厚いところで3キロあります。仮に285万立方キロメートルの氷が溶けたとすると、海洋レベルが7.2メートル上昇することになります。

氷の厚さ
2-3 キロメートル



氷床
7.7%

地球が生産する水の

グリーンランドの氷床は、171万平方キロメートルで、これは世界の水資源の7.7%がグリーンランドにあることを意味しています。

有名なノルウェー人の北極圏探検家であるロアル・アムンセンのボートが北西航路横断航海に成功しました。

最初の横断

1906年



クルーズエリア

北極探検では、北へとより高緯度に向けて航海しながら、バイキングの伝説や捕鯨の歴史について学びましょう。ここでは日照時間が夜にまで及ぶこともあり、これによってクジラの姿を見かける幸運が訪れるチャンスが倍増します。フィヨルドをクルーズし、天然温泉の中でリラックスし、氷山が点在する海やイヌイットの文化、北極の誇り高きシンボルである力強いホッキョクグマをはじめとした驚異的な数々の野生動物の群れに至るまで、あらゆることを体験しましょう。究極かつ総合的な北極体験のために、地球の最北端から大西洋と太平洋をつなぐ北東航路と北西航路の2つの特別な航路があります。

スヴァールバル諸島&ヤンマイエン

ノルウェー本土の北端部と北極点のだいたい真ん中あたりに位置する「ホッキョクグマの土地」は、そびえ立つ山、氷帽、氷河、深いフィヨルド、そして驚くべき野生動物が生息する真の高緯度北極圏です。セイウチ、アザラシ、ホッキョクギツネと2,500から3,000頭のホッキョクグマが生息しています。ツンドラでのハイキングと海岸の散歩では、ドラマチックな景色の中に入り込むことができます。ベア島には、北大西洋で最大の海鳥生息地があります。そびえ立つ漆黒の山々と、どこまでも広がる溶岩の黒いビーチを持つ火山島であるヤンマイエンは、めったに人が訪れない人里離れた土地であるが故に、驚異的な美しさを保っています。原始から変わらぬ景色には、2,300メートルのペーレンベルク山がそびえ立ちます。ニシツノメドリ、フルマカモメ、ユキホオジロなどの数少ない鳥類が見られる一方で、ザトウクジラとミンククジラは、島の間を泳ぎまわり、餌を食べています。



ホッキョクグマ、ストーローヤ、スヴァールバル諸島

アイスランド

アイスランドの地表の下には炎が燃えさかっています。この島は、北アメリカの端とヨーロッパ構造プレートの境界にある、大西洋中央海嶺が貫いています。プレートがゆっくりと離れるうちに、5,000から10,000年前に土地を形成した火山活動が引き起こされ、この地形を形づくってきました。ここには、眩しい白い氷河やそびえ立つ黒溶岩フィールド、赤い硫黄、青い温泉や緑の谷などの目を見張るような絶景が待ち受けています。近づきたい島の名前とは裏腹に、気候は驚くほど穏やかです。スコットランドから約500マイル離れたところにあるアイスランドは、ヨーロッパの最西端の国です。バイキングとケルト人は、1000年以上も前にこの土地に定住しました。魅惑的な旧世界の雰囲気を引き出している広がる入り江に囲まれたアイスランドの素晴らしく、現代的な首都であるレイキャビクに人口の半分が住んでいます。



アイスランドの滝スコガフォス

グリーンランド

又の名を世界最大の島(Kalaallit Nunaat)という**グリーンランド**の手のつけられていない自然が広がるパラダイスで、壮大な景色、イヌイットの住む村、素晴らしい野生動物をお楽しみ下さい。170万キロメートル、つまりグリーンランドの国土の約80パーセントを覆う巨大な氷床は、南極以外では最大のもです。シャギージャコウウシや野生のトナカイがツンドラに生息している一方で、ホッキョクグマ、ホッキョクギツネ、そして様々な種類の鳥は野生動物好きの方々に喜んでいただけます。40,000キロメートルを超える海岸線は、喜びに満ちた地に隠された、北極の宝の扉に恐れを知らぬ旅人たちを誘います。シシミウト、カンガーミウトそしてウマナックといった色鮮やかな町々は、この地に住む人々の強さの証明であると同時に、凍てついたグリーンランドの景色に視覚的なコントラストを与えています。

ノルウェー北部

ヨーロッパ大陸は、ノルウェー最北端まで広がっています。北極圏の周りに散らばるように、ノルウェー北部の入り組んだ長い海岸線沿いを数千もの島々が縁取っており、国内で最も人口密度が低い地域です。ここでは、海岸線はノールカップのさらに向こうにジグザグに走っています。冒険の魅惑が怖いもの知らずで、勇敢な人々を魅了する、とても大きく野生的で、エキゾチックな土地です。自然のむき出しの美しさが人々をこの海岸へと向かわせるのです。太陽に届かんばかりにきらめく氷河の頂き。牧草地を覆う野の花々。そして、もちろん白夜を輝かせる深夜の太陽。トロムソが地域最大の都市で、北極圏の極北部に位置しています。さらに北に位置する、草深く険しいイエスヴァールタッパン自然保護区は、**ニツツノメドリ**のノルウェーで最大の生息地でもあり、海鳥の大量を守っています。

カナダ北極圏

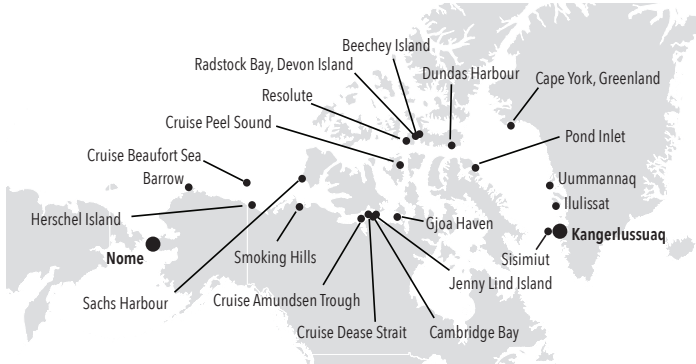
地球上で二番目に大きな国は、北に向うにつれその輝きを増します。隔絶され、荒々しい冒険に最適な地域です。カナダ北極圏の氷の水路に散らばる36,000島に広がる北極諸島は、ヌナブト準州とノースウェストテリトリーにまたがるこの魅力的な地域の中心にあります。そして、険しい崖、荘厳な山、絶景が広がる入り江に潜む多数の宝を見つけるには、クルーズが最適な手段であると言えます。人間がそれほど居住していないことから、特に北極圏山系が輝くシミリク国立公園やニルジュティッカフビク国立野生動物保護区など自然が魅力をそのまま残すことができ、多様な野生動物が生息することができています。





北東航路

アドルフ・エリク・ノルデンショルド、フリチョフ・ナンセン、ジョージ・ワシントン・デロンゲやロアル・アムンセンなどの勇敢な探検家に続き、まるでほかの惑星であるかのように、めったに人が足を踏み入れない島や海岸線を発見しましょう。北極海航路の5,019海里的航海は、究極の北極探検であり、氷が阻まない限り北へと向かうこの旅は、忘れられないものとなるでしょう。アラスカのノームからノルウェーのトロムソまでの航路で、ウランゲリ島の素晴らしい動植物、別世界のようなチャンプ島の景色、息を呑むようなティカヤ湾の玄武岩柱、美しいフィヨルドと荘厳なセヴェルナヤ・ゼムリヤ諸島をご覧ください。旅を通して、この素晴らしい地域の歴史、地質学、野生動物について、乗船しているエクスペディションチームによるレクチャーで学ぶことができます。



北西航路

何世紀も前に現在のカナダ北極圏への冒険を敢行した大胆不敵なバイキングから、太平洋までの北部航路を発見した比類なき勇敢な商人や冒険家まで、北西航路は長年に渡って勇敢な精神を持つものや真の特別な体験を求める人々の関心を集めて来ました。カナダ北部の地図を見ると、徐々に北極海へと広がる36,000を超える島の迷路があり、これは冒険にうってつけの可能性を秘めていることが明らかになっています。我々の旅は、グリーンランド西部のカンゲルルススアークから始まり、カナダ北極諸島ヌナブト準州の中心地を超える前にヨーク岬に向かって北上します。ピール・サウンドやディース海峡などの主要水路をクルーズし、ポフォート海を抜けて、この水上の旅が終わりを迎えるアラスカのノームまで進みます。



ベア島、スヴァールバル諸島



シルバー・エクスプローラー



ホッキョクギツネ

意外な一面：あらゆる形で現れる北極圏の氷

キャリーヌ・ベングアリッド(作家)

北極の氷の魅力を説明することは、虹の美しさを伝えようとするようなものです。つまり、その素晴らしさを真に理解するためには、自分で感じとるしかないのです。

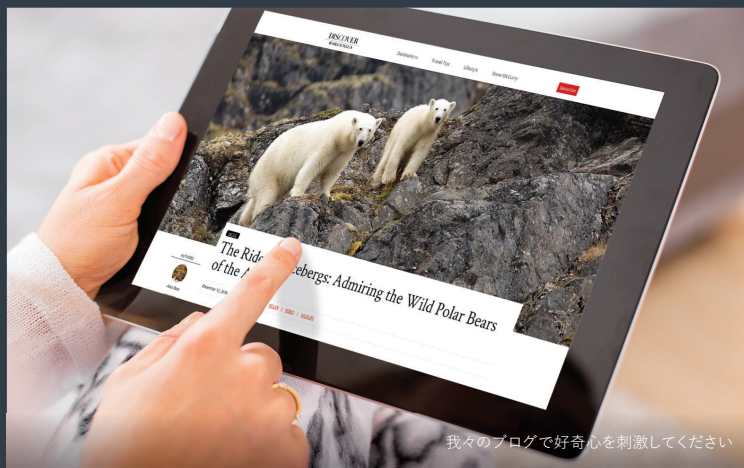
北極圏のクルーズでは、世界で最も眩惑的な自然の神秘である様々な氷の形を目にすることで感謝の気持ちが湧いてくることでしょう。どの氷も一つとして同じ形をしておらず、異様なまでに美しいだけでなく、その氷が最近できたものなのか、何百年も前からあるものなのかをそれぞれが物語っています。「イヌイット語には氷や雪を表す言葉が数多くあります」とカルガリー大学北米北極協会の雪氷学者であるミラー・デイビッド教授は言います。「それくらい景色が変化に富んでいるのです」と。

北極圏に足を踏み入れれば、必然的に氷の形や色、種類、環境下での役割、そして絶え間なく変わり続ける形に魅了されることでしょう。北極の氷は、白磁のような白からパウダーブルーまで、多岐にわたる印象的な色が特徴ですが、それらは様々な特性から形作られたもので、それによっていつ頃できたものかがわかるのです。

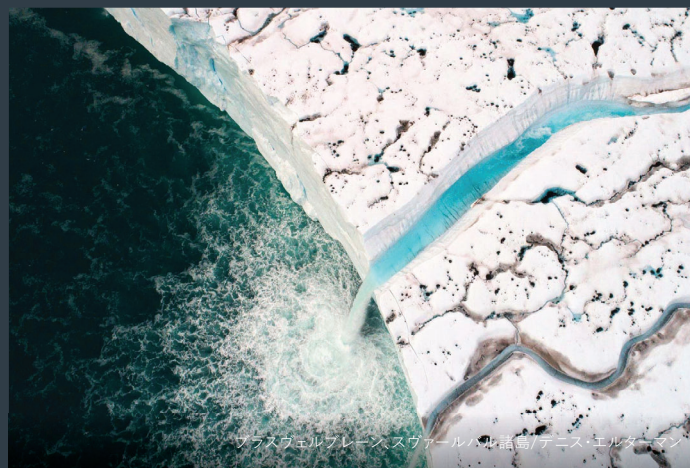
[全文を読む>](#)



写真提供デニス・エルターマン



我々のブログで好奇心を刺激してください



ワラスヴェルフレーン・スヴァールバル諸島/デニス・エルターマン

しかしこの変化に富んだ物語は、私達がディスカバリー・トラベル・ブログで取り上げた、一連の詳しい記事の一部に過ぎません。訪れる土地の専門家たちはそれぞれの個人的な秘話を披露し、世界中のクルーズコースを紹介する色鮮やかな写真や、著名な写真家スティーブ・マッカーリーのシルバーシーでの旅行にハイライトを当てた、舞台裏を紹介する動画をご覧いただけます。ブログのオリジナルの記事では、キンバリーの太陽の下でひなたぼっこをしているクロコダイルから、ホッキョクグマの王国である北極圏の探検に至るまで、シルバーシーで世界中を旅するとはどういうものか、その本当の姿の一端を垣間見ることができます。

DISCOVER
SILVERSEA®

続きを読むには、こちらまで

[Discover.Silversea.com >](#)



ホッキョクグマ、スヴァールバル諸島

地域との出会い

ブリーフィングへの参加、ゾディアックの探検、または陸地でのハイキングなど、シルバーシーの探検クルーズではあっという間に現地の世界に浸ることができます。大波にのるザトウクジラ、こどもを連れ、氷原の頂上まで登るホッキョクグマなど全ての瞬間に感動することでしょう。以下は、出会える可能性のある動植物の一例です。



60 種類の陸生哺乳動物

北極の環境はほとんどの哺乳類にとっては過酷すぎる事が証明されていますが、この地の過酷な条件下に一年を通して生息する種もあり、北極は、陸生哺乳類が生息する場所としては地球上で最も寒い地域となっています。生命力の強い種にはホッキョクグマ、ホッキョクオオカミ、ジャコウウシ、トナカイ、ホッキョクギツネ、ツンドラオオカミ、クビワレミングが含まれます。



12 種類の海洋生物

北極には、4種の鯨(ホッキョククジラ、コククジラ、イッカク、ベルーガ)、ホッキョクグマ、セイウチ、6種の氷上に住むアザラシ(アゴヒゲアザラシ、ワモンアザラシ、ゴマフアザラシ、タテゴトアザラシ、ズキンアザラシ)という12種の海洋哺乳類が定住しており、さらに、シロナガスクジラ、ナガスクジラ、ザトウクジラ、シャチ、ネズミイルカなどの姿も時々姿を現します。



1,700 種類の植物

このような過酷な環境の中でも無性生殖など驚くべき方法で生き抜いています。ツンドラの植生は低木で、主にスゲ、草類、矮性低木、野花、苔類や地衣類などです。



200 種類の鳥類

北極には、季節ごとに地球上の鳥類の約2%を占める、約200種類の鳥類が生息しています。毎年夏になると、幾千もの海鳥が繁殖のために群れをなしてやってきます。キョクアジサシ、オオワシ、キタオオトウゾクカモメ、クロトウゾクカモメなどがここに含まれます。地域の固有鳥類には、ツノメドリ属、ハシブトウミガラス、アカアシミツユビカモメ、ライチョウが含まれ、年中北極に生息しています。

野生動植物は、目撃の可能性を示しているのみであり、目撃を保証するものではありません。エクスペディションチームのリーダーとエクスペディションキャプテンは、そのときどきの天候、野生の動植物の活動、氷の状態を考慮して、できるだけ目撃の機会を確保するために努力し、取り組みます。

王立地理学会

シルバーシー・エクスペディションズと王立地理学会 は、何世紀にもわたる科学調査で整理された知識を広めるために力を合わせてきました。地球科学発展のために約 200 年近く前に設立されたエリザベス 2 世を後援者とする王立地理学会 は、世界で最も重要とされる地理的研究とその成果を共有してくれるでしょう。

北西航路

大西洋と太平洋を結ぶ北西航路の探索は、19世紀初頭から終わりまで、冒険の連続でした。概ね不適切な装備と不十分な食糧で行われていた(万金に値する知恵を持つ先住民族であるイヌイットの人々に助言を求めることをしなかったため)初期の北極探検が、後の南極探検につながることとなりました。北極の凍てつく寒さの中、多くのことが学ばれ、そして失われました。サー・ウィリアム・エドワード・バリーによる初期の探検から、サー・ジョン・フランクリンのエレバス号とテラー号の失われた探検という悲劇、そして彼を探しにいった勇敢な探検隊に至るまで、探検史の有名なエピソードに隠された、スリリングで背筋がぞくぞくするような物語が明らかになります。

北東航路

北東航路の探索に最も密接に結びついている人物は、1878年に北東航路を発見したアドルフ・エリク・ノルデンショルド(1832ー1901)です。ロシアの北部沿岸を回って大西洋と太平洋を結ぶ航行可能な航路を見出すことは、16世紀からのヨーロッパの人々の野望でした。彼は、現代的な蒸気船ヴェガ号でその野望を達成しました。彼の功績によってノルウェー人探検家ナンセンやアムンゼンといった新世代の北極探検家たちは大いに活気づきました。数度にわたるスピッツベルゲンへの探検を経て、ノルデンショルドは海流と北極圏の氷の漂流パターンにおける理論を確立したのです。1868年から1872年の間に、ノルデンショルドは氷床を横断する航路を見つけるためにさらに3度の航海を行いました。これらの挑戦を通して、彼は流氷が予想よりもはるか南を通ることを証明し、氷床を横断して北極点へ到達しようという試みへとつながっていくのです。



01 パッセージ・スルー・ジ・アイス、1818年6月16日、北緯70.44度。1819年、ロンドン、ジョン・ロス著「イギリス海軍省の命令で行われた探検航海、英国海軍の艦船イザベラ号とアレクサンダー号、バフィン湾を探索し北西航路の可能性を求めることを目的とする」より

02 「極めて変わった雪の塊」1833年ジョン・ロス北極圏滞在時作品

皆様に寄り添う専門家たち

シルバーシーは、細心の注意を払って、一流の博物学者や様々な専門家の乗船チームを編成しています。この地球の最果てを探検したいと望む方々は知識と新たな発見を求めていることを私たちは十分に理解しています。



グリーンランドホフマンハルヴォ岬でのハイキング

シルバーシー・エクスペディションズの「エクスペディション・チーム対ゲスト」の割合は、探検クルーズ業界においても最高レベルのものです。すべてのエクスペディション・クルーズに、船によって11から28名の有資格者の専門家が同乗し、皆様の冒険のあらゆる面でサポートいたします。

目的地に合わせた様々な分野の専門家たちが厳選した情報を紹介するブリーフィングやレクチャーが毎日行われます。専門知識を身につけた、経験豊富で才能のある人材の中から、フレンドリーかつ熱心で、それぞれの専門分野に情熱を燃やす人物が選ばれています。専門家達は、皆様のご家族への手紙にしたためたくなるような体験ができるよう、探検のあらゆる機会を適切に皆様に楽しんでいただけるように尽力いたします。

このチームには、生物学者、博物学者、鳥類学者、地質学者、歴史学者、写真家などの多様な専門家が含まれます。完璧な写真の撮り方を知りたい方、その地域に生息する鳥の名前を知りたい方、また地域の歴史を知りたい方、常にだれかが質問に答え、手を貸してくれるでしょう。



ブラッド・シヴィアー
シニア・エクスペディション・リーダー



ニッキー・デナリー
エクスペディション・リーダー



ロビン・アイエロ
海洋生物学者



トゥルルス・クーレ
セキュリティ(ベア・ガード)



ダナエ・シーハン博士
鳥類学者

すべての船旅で予定されるエクスペディションチーム・メンバーは、変更、キャンセルとなることがございます。

エクスペディション体験

エクスペディション専用のシルバー・クラウドには北極圏航海向けの贅沢な空間と安全性が備わっています。辺境の地の極寒の海を安全かつスムーズに航海し、皆様をほかの観光客に邪魔されずひとりじめできる海岸や、人の住まない島々へお連れします。

爽快な岸辺での体験

カヤックで鏡のような湾を進みましょう。ゾディアックでホッキョクグマや海鳥の巣、海辺でのたうつセイウチの姿を探しに出かけましょう。当社の北極圏探検では、お客様の定員を18台のゴムボートに254名に制限しており、全員が同時に探検へ出かけられるように設定しております。

しかし、天候、氷は時刻、カレンダー通りに漂流するわけではなく、その動きを旅程に合わせることは出来ず、上陸を保証しかねることをご了承ください。しかし、体験が素晴らしいものであることには変わりはありません。進むごとに素晴らしく、驚くべきものにあふれています。

オールインクルーシブ・ライフスタイル

- 広々としたオーシャンビュースイート
- すべてのスイートでご利用いただけるバトラーサービス
- 全スイート無制限無料Wi-Fi
- お客様とクルーの割合がほぼ1:1のパーソナライズ・サービス
- 複数から選べるレストラン、幅広い料理、予約不要ダイニング
- スイート内および船内でのお飲物(シャンパン、ワイン、スピリッツを含む)
- ルームサービス
- 旅を豊かにするレクチャー
- 船上のチップ
- それぞれの分野(海洋生物学、鳥類学、歴史など)を専門とする優秀なエクスペディションチーム
- エクスカーションおよびアクティビティ:ほとんどのクルーズでゾディアック・クルージング、ハインキング、カヤッキング*などをお楽しみいただけます。
- 王立地理学会との特別パートナーシップ

*カヤッキングは特定のクルーズでのみご利用いただけます。





シルバークラウド

ラグジュアリーと探検の融合

天候に左右されず、北極での体験を最大限にお楽しみいただくためには、適切な服装が不可欠です。皆様に探検に適した服装を提供するために、探検ギアのワンストップサービスを提供するシップ・トゥ・ショア・トラベラー社と提携しました。質の良い探検用ギアやアクセサリーの購入またはレンタルにご利用いただけます。そして、すべてのスマートな旅人が言うように、荷物は持ちすぎないようにしましょう!シルバークラウドの船上にランドリーもございます。

北極の旅での持ち物チェックリスト

- ✓ 全ての北極への旅では、シルバークラウド・エクスペディションズに特化したツインワンパルカ、軽量・防水バックパック、ステンレス製の水筒はシルバークラウドから無料で提供されます。無料パルカのサイズ選択は[こちらから](#)>
- ✓ 厚手のフリースまたはウールのセーター。
- ✓ 中厚手のフリースとズボン。
- ✓ 防水ズボン。船上でのコンシェルジュ・デリバリーによるレンタルサービスは[こちら](#)>
- ✓ 中厚手の保温性アンダーウェア上下(合成繊維やウール)。
- ✓ ウールまたはフリースの帽子。
- ✓ 防水の暖かい手袋、スキー用手袋(2組)、手袋ライナー。
- ✓ ウールまたはウール混紡の靴下および薄手の靴下。
- ✓ 防寒用のインソールとハンドウォーマー。



スヴァールバル諸島の美しさ



✓ 滑り止めがついた防水、膝丈のゴムブーツ。ゾディアックボートでの上陸時には、氷のような冷たい水に足を踏み入れることがあるため、ブーツは不可欠です。快適にお過ごしいただくために、ご自身のブーツをお持ちいただくか、[こちら](#)>からご利用いただける船上のコンシェルジュサービスを利用したブーツのレンタルをお勧めしています。

✓ UV加工されたサングラス。探検中、日照時間が長くなることが多く、氷からの反射による目への影響が大きいいため、保護が必要です。

✓ 唇、手、顔への紫外線対策ローション。太陽、水面、氷や雪に反射した光は、非常に強いことがあります。

✓ 冷たい風は、北極探索の大きな特徴です。継続的に吹く風は、体温を迅速に奪っていきます。十分な防風・防水装備が不可欠です。暖かい気候では、綿が最適ですが、一度濡れてしまうと一気に体温を奪います。ウールなど合成繊維の製品をお持ちください。ご旅行前に必ず重ね着を試してみてください。上着は、中に着るものの量を考慮して、きやすい大きさのものをお選びください。

必要に応じてお持ちいただくもの

✓ カメラ、メモリーカード、追加バッテリー。ご自宅を出発する前にカメラの動作を確認し、万が一に備えてマニュアルも持ちください。

✓ カメラの300mm+レンズのサポートのためにカメラ用ビーンバッグを持参されることをご検討ください。

✓ 双眼鏡は、フィールド装備の中でも必要不可欠なものであり、陸上での体験をより楽しめます。ご旅行前に、コンパクトセットを購入し、一度試してみてください。

✓ 乗り物酔い薬(船上でも入手していただけます)。

✓ スペアのコンタクトレンズ、メガネ。

✓ ゾディアック乗船時または上陸時に、カメラを濡れないようにするための大きめの密封袋を数枚。

✓ 筆記用具。

✓ 虫除け。アイスランド、グリーンランド、カナダ北極圏では蚊よけネットのついた帽子もオススメです。

✓ 氷・雪上、凹凸地では、軽量・折りたたみ式の杖(トレッキングポール)を使うことで安定感、運動量バランスや歩きやすさが実現します。レンタルは[こちらから](#)>

✓ 北極の豪雪時に役立つがスキーマスクです。



船上でご利用いただけるコンシェルジュデリバリーは[こちら](#)>



スヴァールバル諸島のセイウチ



グリーンランド、イルリサット



キョク



探検家の気持ち

北極の辺境の地への探検は、正真正銘の冒険です。世界の最後の未開拓地の一つであり、北極の専門家たちと共に凍てついた海を航海し、景色や歴史、野生動物などを体感すれば、この保護された地域に対する深い尊敬の念を抱かずにはいられないことでしょう。

皆様の旅が素晴らしいものとなりますように。

コンラッド・カムブリック

SVP Strategic Development Expeditions and Experiences

